



模試を生かそう

5月17日（土）に最初の模試が予定されている。裏面に君たちが選択した理・社の科目を載せておいたので確認しておこう。

今回は河合塾の記述模試であるが、例えばS予備校に通っていたりして、今年はその予備校の模試を年間通して受けようと思っている人もいるかも知れない。私も基本的には色々な予備校の模試をミックスして受けるのではなく、どこか一つの模試を基本に据えて受け続けた方がイイと思う。模試を作る側も一年間の出題計画を立てているわけだから、年間を通して受けて初めて全領域がカバーされることも考えられるからである。

ただ、それは「基本に据えて」ということであって、たまには（2～3回は）他の模試を受けることにも意義がある。というもの、年間を通してすべての問題が良問であるという模試は残念ながらないからである。だから、たまには違う視点から作問された問題に触れてみる価値はあるのである。

*

昨年も書いたが、模試は基本的にイイ点を取るために受けるのではない。イイ点が取れる模試などは、自分が新たに身につける内容が少なかった模試ということになるわけで、逆に悪い点であればあるほど、その原因となった部分を復習して身につければ、それだけ自分にはプラスになるのである。

また、試験を受ける以上、イイ結果をゲットしたい気持ちは分かるが、模試でイイ点が取れても本番で失敗してしまうなら、これほどアホらしいことはない。だから、模試では、自分の身につけていない事項を確かめること

とともに、試験を受ける際の取り組み方についても、さまざまな実験をしてみる大切である。例えば、先日の面談の時、「センターの古文で時間がかかるので、先に設問を読んだ方がイイでしょうか？」という相談を受けた。私は「正解を選ぶ際に選択肢は丁寧に読まなければならない。サラッと選択肢を先に読むことで大雑把に文章の内容が分かり、古文が読みやすくなるという効果よりも、サラッとしてあっても選択肢を読むのに時間がかかると、それがかえって無駄になるのではないか」と考えるので、あまりその方法は進めていないが、しかし、その方がうまくいくという人もいるかも知れない。

で、そういうことを模試の際に試してみるのである。すべての設問を先に読んでいたら時間がなくなった、なんて経験をすることで、では最後の問5とか問6だけサッと目を通してみたらどうだろうといった工夫も生まれてくる。模試は、こういうことは試すためのものでもあるのだ。そんなことは家でも試せるのではないかと思うかもしれないが、やはり会場で実際にやってみるという臨場感が大切なのである。

*

最後に、復習をしない模試ほど意味のないものはない。復習をすることで、同じタイプの問題が出題されたら、次は確実にできるようにする（記述式なら確実に部分点を稼げるようにする）ことが大切だ。初見の問題が出来るようになるためには、既出の問題を確実にするしかない。つまり復習なのである。